



医療安全通信 第75号

【薬局部医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

「アレロック」と「アテレック」の 販売名類似 による 取り違い について

PMDA（医薬品医療機器総合機構）より、「製薬企業からの医薬品の安全使用（取り違い等）に関するお知らせ」が紹介されています。

全文は右記よりご確認ください。 <https://www.pmda.go.jp/files/000232847.pdf>

| 薬効分類名 | アレルギー性疾患治療剤 | 持続性Ca拮抗降圧剤 |
|-------|---|---|
| 販売名 | アレロック錠 2.5・5 アレロックOD錠 2.5・5 | アテレック錠5 アテレック錠10 アテレック錠20 |
| 一般名 | オロパタジン塩酸塩 | シルニジピン |
| 効果・効能 | 成人：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚そう痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅斑) 小児：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症)に伴うそう痒 | 高血圧症 |
| 用法・用量 | 通常、成人には 1回 オロパタジン塩酸塩として 5mg を朝及び就寝前の 1日2回 経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 通常、7歳以上の小児には 1回 オロパタジン塩酸塩として 5mg を朝及び就寝前の 1日2回 経口投与する。 | 通常、成人には シルニジピンとして 1日1回5～10mg を朝食後経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。効果不十分の場合には、 1日1回20mg まで増量することができる。 ただし、重症高血圧症には1日1回10～20mgを朝食後経口投与する。 |

「アレロック」と「アテレック」については、2004年と2008年に製品ごとの販売名類似による取り違いの注意喚起が行われ、PTPシートに「アレルギー性疾患治療剤」「高血圧症の薬」と調剤時の取り違い防止の目的で薬効が表示されていますが、2009年1月～2018年12月の間に調剤での両剤の取り違い事例が52件報告されています。(2019年11月14日時点、(公財)日本医療機能評価機構 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業)

- ◆ **事例の内容**
処方アテレック錠5mgであったが、間違えてアレロック錠5mgで調剤した。監査時に気づき、調剤しなおした。
- ◆ **背景・要因**
名称が似ており、規格も同じだったため、処方箋の見間違いと調剤時の焦りが原因だと考えられる。
- ◆ **改善策**
○薬品棚への注意喚起ラベル貼付（名称類似、薬効）
○類似名称医薬品の一覧の掲示

「アレロック錠・OD錠」と「アテレック錠」を間違えやすい医薬品として、新しく配属になった職員をはじめ全職員が認知する機会（研修、薬品棚の表示等）を設け、調剤時には販売名、効能・効果等の確認を怠らず、取り違いを防止してください。

旭川薬剤師会公式サイトに医療安全通信のバックナンバー、掲載資料や参考資料も掲載しています。

